令和３年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人しらさぎ福祉会

社会福祉法人しらさぎ福祉会　第２期中長期計画事業報告
（期間：　令和３年４月１日～令和６年３月３１日）

≪経営ビジョン≫

家族と暮らしているようなアットホームな施設としての誇りを持ち、地域社会に貢献し続けるための組織体制と経営基盤を築く。

１　サービス品質

１）経営理念・方針の周知

「アットホームな施設」でありつつ、基本理念である「誠心誠意」「心温かく丁寧」「地域貢献」等のイメージを施設カラーとして地域社会に浸透させます。（１年）

【評価】法人理念が職員におおよそ浸透したことを受け、ホームページやパンフレットに加え、日々の取り組みと限られた地域との交流の場を積極的に利用し、ＰＲし続けました。

２）外部評価の実施

定期的な第三者評価の受審、情報公開を通じて、取り組みの魅力を発信します。（２年）

【評価】今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まりを見せず、安全を重視する中、令和４年度での実現を見据えて、評価機関との打合せを重ね、９月の実地調査に向けて事前資料作成中。

３）業務手順の標準化

新しい生活様式を盛り込んだマニュアルの整備を行い、全職員に周知します。　（１年）

【評価】新しい法整備や新しい生活様式が求められる中、全事業所において年１回のマニュアル見直しを進めました。

４）コンプライアンス

常識やマナーはもちろんのこと、全職員が法令遵守への高い意識を以て行動、発言できるようにします。（１年）

【評価】法令遵守をテーマとした内部研修を実施するとともに、新規採用職員とフォローアップが必要な職員に対する個別研修も実施しました。

２　人材

１）人材確保

多様な人材確保を実現し、人員配置基準の維持継続を果たします。また、人材を獲得するため、組織を挙げて職場の魅力を発信します。（２年）

【評価】資格取得支援により１名が初任者研修を修了。高齢者や障害者を含む多様な人材が活躍できる職場として情報を発信しました。　結果、令和３年９月に「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」、令和３年10月に「シニア活躍事業所」、令和４年１月に「ユースエール認定企業」に認定されました。

２）人材育成

各部署に於いて、キャリアパス制度に基づいた体制づくりのため個別教育計画を立て、計画的に

実施します。（２年）

【評価】中長期的な人材活用を視野に、組織力強化を目的とした配置転換を行いました。

３）経営マインドの育成

経営的視点を職員に浸透させ、共通の目標を掲げます。（２年）

【評価】職員の経営的視点を育て、利用者満足度と収益率向上のため、特色など利用者のメリットを増やすための対応力強化を図りました。

４）役員構成

地域と一体的に取り組み、地域に貢献し続けるための組織力向上を果たします。（１年）

【評価】地域住民目線から幅広い意見を求めて、地域の福祉向上に励んでいきます。

５）権利擁護

対人援助職として、権利擁護への意識を高め、常日頃からの行動姿勢を通じて施設評価を高めます。（１年）

【評価】介護報酬改定に伴い、高齢者虐待防止のための指針を掲げ、年間計画に基づく施設内研修と会議、委員会を実施し、虐待防止への意識向上に取り組みました。

３　財務基盤

１）事業収入の拡大

介護報酬制度の改定により変革が求められる中、全事業で介護保険事業収入向上を目指します。（２年）

【評価】令和３年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が繰り返され、その影響から感染拡大防止への意識が高まりましたが、サービス利用には回復の兆しがみえました。

２）積立金の計上

無駄な支出や不適切な経費を徹底して見直し、年間を通じ積立金を確保します。（３年）

【評価】事業収入に連動する形で目標には到達せず。引き続き取り組みを継続します。

３）財務分析

月次決算による財務分析を行い、予算と収支を意識し計画的な資金運用を行います。（１年）

【評価】計画的に財源を運用し、労働環境と施設内環境の改善に取り組みました。

４　制度及び行政の動向

１）介護報酬の改定

制度の仕組み及び加算算定要件を徹底分析し、常に新しい加算の算定を目指した取り組みを行います。（２年）

【評価】科学的根拠に基づく取り組みを進めるうえでのLIFEの活用を進めます。災害対策、感染対策、ハラスメント対策、高齢者虐待への対応について、運営規程を見直したうえで取組を実践しています。

２）行政からの受託事業

地域包括支援センターの運営など公益性の高い取り組みを通じて、地域における法人の存在価値を高めます。（２年）

【評価】姫路市からの受託事業のうち生きがい対応型デイサービス事業はコロナ禍において４カ月ほどの休止を強いられました。また、生きがい対応型デイサービスは姫路市の方針により令和３年度末で終了しました。地域包括支援センター運営事業は、人材不足の中で専門職の確保が大きな課題となる中、多くの複雑多様な課題に取り組み、１年間の役割を全うしました。

5　地域との関係

1）地域連携

感染症拡大期により希薄化した地域関係者やボランティアとの協働姿勢を強化するため、信頼関係を堅実維持するとともに課題を共有し、問題解決機能を地域協働により築きあげます。（2年）

【評価】感染対策を伴う取り組みが収束を迎えることなく続き、地域行事への参加機会やボランティアの受入など貴重な交流機会を得ることはできませんでした。しかし、そのような中でも独自の取り組みを通じて地域とつながり、情報交換や連携を図るため、イベント開催や小・中学校での福祉学習や福祉施設見学を実施する等、感染対策を行いつつ実現し得る活動について積極的に維持継続を図りました。

2）地域特性の把握

自治会や民生委員、老人会、それぞれの特性を活かした情報網を確立し、コロナ禍でも可能な形の連携体制を事業運営に活かします。（1年）

【評価】行事開催は難しくとも、自治会や民生委員など地域各種団体との連絡・相談・対話を大切に取り組み続けました。

3）労働市場の開拓

地域福祉の持続化を目指し、地域での福祉教育・介護のイメージアップ活動を展開します。（2年）

【評価】地域福祉の大切さと地域を支える人材確保の重要性・緊急性を説き関心と協力を求めました。

6　マーケット

1）地域ニーズへの対応

利用者ニーズの分析と顧客満足を追求し、特色ある事業を目指します。（3年）

【評価】デイサービスに重点を置き、部署間連携や取り組みのPRに力を注ぎました。

7　設備・備品管理

1）感染拡大防止策としての各フロアゲートの設置

感染症対策が重要視され続ける中、リスク拡大を防ぐため、フロアゲートを設けます。（3年）

【評価】本館から新館への入口にフロアゲート設置を完了。また、特養本館西トイレのプライバシー整備のためのゲートを設置しました。

2）水道配管及び給湯設備の更新

給湯器の修理に加えて老朽化した給湯配管の組換え工事を行います。（3年）

【評価】10月に給湯器（エコキュート）の更新を完了。次の段階として給湯配管やその循環に影響を

与える機能（ポンプ、モーターなど）の一部更新を行いました。

8　防災・感染症対策

1）事業継続計画の整備及び周知

災害発生及び感染症の蔓延に備え、被災等から事業を再開する手立てとして事業継続計画（BCP）を整え、職員に周知し、訓練に活かします。（1年）

【評価】事業継続計画は既に整い職員に周知しました。今後は、兵庫県老人福祉事業協会が整備を進めているBCPのモデルや策定のポイントが7月には共有される予定であるため、それを基に精度を高めるための見直し作業を行います。同時に分かり易く工夫します。

2）災害や感染拡大への対応力強化

災害訓練及び感染症対策訓練としてシミュレーションを行い、職員の対応力向上につなげます。（2年）

【評価】4月までに運営規程の見直し、訓練と研修を実施。まずは定着化を図ります。

令和3年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　しらさぎ福祉会

≪経営ビジョン≫

家族と暮らしているようなアットホームな施設としての誇りを持ち、地域社会に貢献し続けるための組織体制と経営基盤を築く。

≪基本理念≫

誠心誠意を尽くし　その人らしさを尊重し　貢献心を強く持つ

≪基本方針≫

①　わたしたちは、懇切丁寧に接し、安全で安心、安楽な生活環境をつくります。

②　わたしたちは、尊厳を守り、個別性のある心温かい支援を行います。

③　わたしたちは、地域社会とのつながりを大切にし、福祉向上のために貢献します。

1　法人経営の原則の遵守

法人は、定款第3条の規程に則り、社会福祉事業の主たる担い手として相応しい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、経営基盤を強化し、サービスの質向上及び事業経営の透明性の確保を図り、地域福祉の推進に努めることを宣しています。

令和3年度は、その実践として以下のとおり取り組みを行いました。

一つ目に、経営基盤を強化です。新型コロナウイルス感染症による利用控えなどの影響も受けて低迷を続けるデイサービスの稼働率向上を目指し、顧客拡大に向けた取り組みに注力しました。

二つ目に、感染対策における職員の予防意識を強く持ちしっかりと備えを行うため、訓練や研修、環境整備などを行い、徹底した守る体制の強化に努めました。具体的には学習とシミュレーションによる訓練、室内換気設備の整備、フロア間ゲートの設置、サーモカメラの設置、CO2センサーの設置が実現

しました。

三つめに、住環境と労働環境双方の課題であった空調設備と給湯設備の安定的な改善です。また、県の補助金を利用した通信環境整備とインカム、介護ロボット（見守りセンサー）の導入を実現し、業務効率化と利用者生活の安全性向上につなげました。

2　事業運営

① 第一種社会福祉事業　特別養護老人ホームの経営
② 第二種社会福祉事業　老人短期入所事業の経営
　　老人デイサービス事業の経営
③ 公益事業　居宅介護支援事業
　　地域包括支援センターの経営

3　本年度の重点施策

1）　サービス品質

① 基本理念と方針を全事業、全職員の取り組みの基本的な考えとして常に実践と振り返りを促し、職員教育とサービスの質向上につなげました。

② 外部評価は感染拡大期が続いたため実現しませんでしたが、令和４年度実施に向けて相談と打合せが進み、具体的なスケジュールが確定、計画性を高めることができました。

③ 規程の見直しを進め、現時点での実態に即して見直しを行いました。

④ 会議や研修を通じてリスクマネジメントの考えと法令遵守の重要性を説き、周知徹底を図りました。

⑤ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大と変異ウイルスによる長期化の中で、予防策を講じながらの事業運営を行い、施設行事や地域活動を再開するなど、実現可能な手段を検討し実行しました。また、マニュアルの見直しにも着手しました。

2）　人材確保と人事管理の適正化への対応

① 地域とともに会し、地域福祉の向上に向けた対話を行う機会をつくりました。

② 高年齢者や障害のある職員など多様な人材が役割を担う体制が定着し、多様な人材がいきいきと働き、職場を支える風土を築くことができました。また、令和３年度は、９月に「ひょうご仕事と生活の調和推進企業」、10 月に「シニア活躍事業所」、令和４年１月に「ユースエール認定企業」に認定され、正に多様な人材が活躍する職場としての証を得ることができました。

③ キャリアパスの仕組みに則った新体制を築き、体制の強化にもつなげました。

④ 兵庫県の労働環境改善支援補助金を活用し、通信環境を整備したうえでインカムと介護ロボット（見守りセンサー）を導入し、業務効率化を図りました。

⑤ 管理職や中間管理職以外の職員にも経営的視点を浸透させました。

3）　財務基盤の強化

① 空調設備更新工事とエコキュート更新工事では施設内の環境改善に成果がありました。

② 特養ではショートステイを含め、積極的な早期受診対応により重篤化防止につなげ、基本理念

のとおり利用者とご家族の安心につなげました。

⑤　サービスの充実を第一としつつ、食材や電気、水などを無駄な浪費を避け、電気についてはデマンド監視装置を利用した徹底管理に努め、水については漏水疑いへの早期対応により損失を抑止しました。

4）　地域との連携強化

①　コロナ禍において、地域交流と情報交換の場がない状況が続く中、人数と時間などの規模縮小により、イベントを開催し、情報発信と地域ニーズの把握につなげました。

②　トライやるウィークの前段階で行う林田中学校１年生の福祉学習授業は、感染予防のため、オンラインにて実施しました。

③　林田小学校４年生が行う職業調べのための施設見学が感染予防のために実施できず、代わりに代表者による「職業調べインタビュー」に応じました。

④　トライやるウィークでは、林田中学校２年生２名を受け入れ、利用者とのソーシャルディスタンスを図りながら、オンラインを所々活用した実施を実現しました。

⑤　地域における公益的活動が悉く実施を見合わせざるを得ない中、地域への情報発信や相談会など、今できる形から地域への貢献活動を再開させることができました。

5）　設備備品管理

①　感染症対策のため、兵庫県や姫路市からの支援を得ながら衛生用品や防護用具を備蓄し、わずかな不安要素にも早めの検査と対策を講じました。

②　給湯設備のうち機能が低下していたエコキュートの修理を終え、次の段階として給湯配管の調査と組み換えを行う段階に入りました。

6）　災害時に備えた体制の整備

①　例年どおりの火災避難訓練は、感染拡大状況を踏まえて地域住民の当日参加を得ることができず、映像に残して後日合同の検討会を開いて合同訓練としました。また、国内各地で感染拡大と地震等災害が度々発生する中、感染症の蔓延防止と防災への意識、対応力を高めるための訓練・勉強会を計画に従い実施しました。

②　令和３年度からは避難確保計画と事業継続計画（BCP）に従い、シミュレーションを手段とした訓練を導入し、対応手順や役割明確化など、マニュアルの具体化につなげることができました。

③　感染対策の強化と映像駆使したシミュレーションを通じて危機管理意識を高めることに注力しました。

④　災害に備えた地元住民、近隣施設との連携体制では、意見交換の場や合同の学習機会をつくり、次のステップにつなげました。

⑤　福祉避難所としての役割を果たすことができる体制を築くため、マニュアルを周知。次の段階として訓練の実施を視野に入れていたところ、条件が整わず、次年度以降に実施を目指します。

⑥　ホームページのリニューアルに合わせて機能性と、整い次第その利活用を進めました。